

東村山市民新聞



第202号
2023年2月20日



公明党の執念により議員のタブレットPC支給案が復活

物価・光熱費高騰であえぐ 市民の血税にたかる議員達！ 25人の議員のタブレットPC配布予算には年間450万円！

昨年、「コロナ禍で市内経済が逼迫する中での議員専用の高額システム導入とタブレットPCの議員配布計画については、朝木議員と、藤田議員、共産党の各議員の猛烈な反対を押し切り、公明と佐藤まさたか議員を中心に、自民、白石えつ子、上町三子、鈴木たつお各議員が賛成して予算要求を強行し



たものの、見事にボツとなった。ところが、選挙前の今年度になって、突然渡部市長が来年度からこの計画を予算化すると言いだしている。

今回の約束を破った渡部市長の5期目への出馬表明に対して、当初、自民党はさすがに推薦をじがり、しりげムード。それでも渡部市長が5期目出馬に意欲的かつ強気なのは、公明党からの強力な支持があるからだ。特に渡部市長は公明党・谷村都議の「お気に入り」とされており、今回も「谷村都議が渡部市長を放さないだろう」という囁きがあちこちから聞こえていた。

5選を狙う渡部市長 公明党の支持をバックに

もともとは自民党市議だった渡部市長は2007年に市長に転身してから今年で4期16年目だが、4月に施行される統一地方選挙で、5期目を狙って立候補すると表明した。

を自粛すべき」という多選自粛条例も8自治体で制定されている。このように3期を超える首長のいわゆる「多選」については弊害を防止するため、本来、市長自身が自粛すべきことなのだ、それができない市長に対し、多選を防ぐための方策や議論が全国的に広がっているのが現状だ。

公明党お抱えの渡部市長

東村山の市長は、代々自民党の推薦支援を基盤にしているが、自民党も市長は3期まで、という不文律があり、前回、渡部市長が4期目出馬の意向を示した際には「今回で最後」という約束で、推薦をしたという経緯がある。

今回の約束を破った渡部市長の5期目への出馬表明に対して、当初、自民党はさすがに推薦をじがり、しりげムード。それでも渡部市長が5期目出馬に意欲的かつ強気なのは、公明党からの強力な支持があるからだ。特に渡部市長は公明党・谷村都議の「お気に入り」とされており、今回も「谷村都議が渡部市長を放さないだろう」という囁きがあちこちから聞こえていた。

公明党お抱えの渡部市長

東村山の市長は、代々自民党の推薦支援を基盤にしているが、自民党も市長は3期まで、という不文律があり、前回、渡部市長が4期目出馬の意向を示した際には「今回で最後」という約束で、推薦をしたという経緯がある。

これは、議員達が、ギガスクール事業で、小学生がシステムを使いタブレットを支給されているのをうらやましく思ったのが、自分達も議員の専用システムと各議員専用のタブレットPCが欲しいと要求しているもの。

収入のない子ども達が、毎日の義務教育学習のためにPCを支給されるのと異なり、議員は年収約780万円、そして議会の会議は年間50日程度。そして現状、各議員は自分のPCを所有している何も困っていない。

また、市職員が公金で購入した備品は、当然、勤務時間外に市役所外への持ち出しはできないが、この議員のタブレットPCは自由に持ち運び可、自宅での私的利用もできるという特別待遇。

小中学生の医療費助成の所得制限撤廃の予算 2400万円は出さない渡部市長

これまで朝木議員は市内義務教育就学児の医療費助成の所得制限撤廃を訴えてきたが、その予算が2400万円かかるとして、渡部市長は拒否してきた。また、高校生の医療費助成の所得制限の撤廃

タウンニュース

西東京市議会議員選挙で 長井秀和氏がトップ当選！

創価学会2世の立場で創価学会批判を繰り返している長井秀和氏が、昨年12月の西東京市議会議員選挙でトップ当選した。創価学会を怖がって正面から批判する議員は全国的にもほとんどないことから、西東京市での長井氏のトップ当選は創価信者にとっては衝撃的だったようだ。

東村山市では故朝木明代議員が、創価学会の脱会者の救済活動等、創価学会問題に積極的に取り組んできたが、1995年に何者かに殺害され、その後は同僚の故矢野穂積議員と朝木直子議員が遺志を継いできた。一昨年12月には矢野議員が逝去、現在、矢野議員の後継者として、子安しゅん本紙編集員が朝木議員と共に活動しているが、今後も長井議員に続いて、カルト団体と政治の癒着を糾弾する議員を増やしていく必要がある。

のための予算は約8000万円。

しかし、今回たった25人の、しかも780万円もの年収がある議員の要望に心え、不要不急のシステムを導入し、タブレットPCを配り、インシャルコストに570万円、その後のランニングコストとして年間450万円の予算を確保する見通しだ。

「コロナ不況や光熱費・物価高騰で市民の生活はこれからさらに大変なことになる。この大不況下で、本来税金の使途を監視するのが大きな役割であるはずの議員が、市民の血税で物品をたかるのだから、あきれ他ない。」

政務活動費、視察旅行などの議員特権は即刻廃止を！



行政監視型市民派
子安じゅんのプロフィール

▼1983年大阪府生まれ。豊能郡能勢町立歌垣小・能勢町立能勢東中・府立池田高・創形美術学校卒／会社勤務／新聞編集／高齢者団体役員／2022年1月より東村山市民新聞編集スタッフ／地元FM局で番組作り／「脱原発」／政治と宗教問題への関心から矢野穂積議員の遺志を継ぐことを決意。

子安じゅん VOICE

草の根・矢野穂積議員を受け継いで

朝木直子議員の発行するこの東村山市民新聞の記者および編集員として、東村山市議会の様子を見てきました。選挙の時に言っていることと正反對で、コロナ禍不況で苦しむ市民そっちのけで議員の待遇改善を議決したり、タブレットPCを欲しがっている議員を見て、あまりの幼稚さと欲の深さに大変驚きました。

また、高齢者向けの食事にボランティアで参加し、コロナ禍で分断されている方、生活に困窮さ

れている方、身体が思うように動かないために支援を必要としている方、など、様々な課題がある方たちに、行政が丁寧に関わり添っているとはいえない現状を目の当たりにしました。

このようなことに憤りを感じ、故矢野穂積議員を受け継ぎ、朝木直子議員と共に、東村山市民のために活動していきたいと思っています。そして、朝木直子議員の母・明代議員の殺害事件の真相究明活動も、日本の民主主義を守るために全力で闘っていきこうと決意しています。

東村山市民のみならず、どうぞこれからもよろしくお

担当地域
野口町・多摩湖町・廻田町・美住町
富士見町・栄町・萩山町・本町

願います。

子安じゅん HP



朝木直子 VOICE

さっそく視察旅行

「コロナ感染がやっと落ち着いてきた秋頃から、4月任期が終了する議員たちは駆け込みのように視察旅行を再開しています。物価高騰や光熱費の高騰で苦しむ市民の税金で、「視察」という名目で泊りがけで、お付きの職員を連れてソロソロ出かけています。そして、夕食代に一人3000円を税金から支出し、夜は飲

行政監視型市民派 朝木直子のプロフィール

▼母・明代議員の殺害事件後、遺志を継ぎ、謀殺事件究明、庶民・弱者の生活を守り、税の使途、行政腐敗を監視するために闘うことを決意。憲法学習会・廣渡塾一期生／市民新聞編集長／現職市議会議員

▼1967年東村山市民諷刺町生まれ／化成小・2中・都立武蔵高・慶応大卒／会社勤務／高齢者団体役員／社会福祉法人理事／「政治と宗教を考える会」／「脱原発」／地元FM局で番組づくり／憩いの家委託問題を追及し、市長に予算を撤回させる／朝木明代議員殺害事件究明に28年。

政務活動費、視察旅行などの議員特権は即刻廃止を！

担当地域
諏訪町・久米川町・秋津町
青葉町・恩多町



朝木直子 HP



Twitterでも情報発信中！



「夏休みの自由研究」さながらの「視察報告書」を見れば、任期4年の議員たちが血税を使って視察旅行に行く必要性はどこにも感じられません。お隣の東久留米市は議員の視察旅行は廃止しています。私は泊りがけの視察旅行には一度も行っておりませんが、議員活動に何の支障もありません。

「ICTの時代で、今やわざわざ出向かなくとも情報は入る時代。オンラインで全国どこでも会議ができます。議会のICT化と大騒ぎをして予算を使い、iPadを一人一台導入したいようですから、その際にはぜひ視察旅行は廃止し、インターネットやオンラインで「研究」してほしいものです。

私は議員報酬のお手盛り値上げに反対し、任期中のお手盛り値上げおよび市職員より多いボーナス減額提案分は受け取り拒否しています。

期末手当返上額

5,967,410円